

NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

2015 年度事業報告書

2015 年 4 月 1 日～2015 年 12 月 31 日まで

1. 2015 年度 事業を実施して

▼はじめに

2015 年度がスタートして早々の 4 月下旬、ネパール大地震のニュースが世界中を駆けめぐり、ネパール至上最悪の 8700 人以上の死者数が報告されました。フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは、日頃ネパールへの支援は実施していませんが、過去にネパールでの支援活動を検討するため現地調査訪問時に培ったネットワークを活かして、現地の NGO を通じた緊急支援活動を行うことを決定し、全国のメンバーやサポーター、協力者の皆さんに呼び掛けたところ、多くの方が募金に協力して下さいました。例えば、熊本グループの皆さんは、熊本で学ぶネパール人留学生と連携し、5 月の大型連休中に連日、募金活動を大々的に行うなどしました。たくさんの方のご協力のおかげで、現地民間組織 SEBS と、シーライツ（NPO 法人国際子ども権利センター）を通じて現地 NGO の CWIN への緊急復興事業に協力し、合計で 3000 人以上もの被災したネパールの子どもやコミュニティを支援することができました。ご協力下さった皆様に改めてお礼申し上げます。

国内事業として、関西圏では初めての「テイク・アクション・キャンプ」を夏休みに開催し、小学 5 年生から高校生までを対象としたリーダーシップトレーニング事業を実施しました。キャンプの実施に向け、大学生や社会人ユースメンバーを対象にファシリテーター育成研修を行い、キャンプの担い手を育てました。更に、彼らにはキャンプだけでなく、キャンプ実施後の学校への出張講演においてもファシリテーターとしてワークショップやスピーチを担当してもらうことができました。

組織運営の変化としては 2015 年 11 月 19 日に臨時総会を開き、事業年度決算時期の変更をしました。今までは 4 月から翌年の 3 月を 1 年としていましたが、1 年の活動を報告する「総会や活動発表交流会」により多くの子どもや若者メンバーに参加してもらうために、2016 年度より 1 月から 12 月を 1 年とし、3 月に総会・活動報告会を開催します。そのため、2015 年度は 3 カ月少ない 9 カ月のみの事業年度となりました。

2015 年度の重点課題の一つに挙げていた組織のスタッフの労務環境の改善と体制づくりについては、東京都のワークライフバランス推進助成金を活用して、育児休業中の職員の能力開発と復帰後にスムーズに業務に取り組めるような体制作りや、多様な働き方ができるようスタッフ間で理解を深め在宅勤務環境作りに着手しました。また、職員の介護支援ニーズを調査し、仕事との両立支援制度の整備についても取り組みました。しかし、労務環境の改善については着手したばかりで未だ十分に整っているとはいえない状況のため、2016 年度にも引き続き体制づくりに努めると同時にスタッフ間のコミュニケーションを促進し、多様な働き方が実現できるよう環境を整えていくことで、全てのスタッフが気持ち良く働けるよう努力する所存です。

▼2015 年度 活動のハイライト

1. ネパール緊急支援事業の実施

現地 NGO 及び NPO 法人国際子ども権利センターを通じ、3000 人以上の被災した子どもやコミュニティへの緊急、復興支援に取組んだ。

2. 全国規模での出張講演・ワークショップ実施

全国の学校や地域等での出張講演活動を通じて 5,919 人に、その他自主イベントを通じて合計 6000 人以上の子ども、若者、おとなに対して直接アプローチし世界の子どもの現状や子どもの権利、解決に向けできることについて考える機会を提供した。また、子どもや若者対象のスピーチに関する図書館向け書籍を 3 巻セットで大月書店より出版し、副教材の開発を行った。

3. 海外自立支援事業の質的拡充の継続

ケニア、フィリピン、インドの女性（合計 96 人）に対し、自立支援サポートを行い、女性を対象にした生計維持・収入向上研修、支援を行った。

4. 労務環境の改善と体制づくり、個人情報の管理システムの構築と運用

東京都のワークライフバランス推進助成金を活用し、育児休業中の職員の能力開発と復帰後のスムーズな業務への移行可能な体制作り、多様な働き方の実現を目指す職員の理解促進、在宅勤務環境作り等に着手した。しかし、個人情報の管理システム構築と運用については、2015 年度中に終了できず、引き続き、2016 年度に取組む予定である。

団体のビジョンの実現に向けた良質な活動と組織運営を進めていく所存ですので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

代表理事 中島早苗

2. 2015 年度 事業活動報告

1) 子ども主体事業

担当：子ども代表委員 2015

◆子ども代表委員 2015

笹野 千枝里 (高校 3 年生)

川島 悠 (高校 2 年生)

◆事業の目的と役割 と 活動内容

*目的・役割：

全ての子どもメンバーが安心して楽しく活動できる環境づくり。イベントを企画・運営するというより、地方と活動チームや、新しいメンバーと活動チームの仲介の活動をすること。

*活動内容

子どもメンバーの活動活性化のためのイベント企画と運営

内容：ハロウィンパーティー、ハロウィン募金とその準備を実施

2) 子ども活動応援事業

◆事業の目的と役割 ・ 活動内容

1. 国内の子どもが、世界の開発途上国でみられる児童労働など苛酷な状況に置かれている子どもの現状を学び、問題を解決するための支援活動の企画・実行を主体的に行えるように育成する。
2. 国内外の子どもの権利の擁護を求め、子ども参画を果たすための子どもによる活動のサポートを行う。
3. 東日本大震災支援－特別子ども支援

【活動ご協力のご紹介】

◆寄付協力：株式会社チャンピオン美容室（東日本大震災支援）

◆助成協力：世田谷区 国際平和交流基金（活動ヒント講座）

活動	内 容	実 施 日 時	実 施 場 所	従事者の人数	参加対象者の範囲・人数
子ども活動家育成	FTC カナダが行う Take Action Camp（夏にトロントで実施されている子ども・若者向け 1 週間のリーダーシップトレーニング・プログラム）に日本の子ども若者が参加できるよう企画運営。	8/1～8/10	Toronto 郊外、Me To We Leadership Centre	4 人	7 人
	Take Action Camp Japan の企画実施。日本にいる子ども若者が社会問題を知り、その解決に向けて自らがアクションを起こし、より良い世界のために活動するためのノウハウを学ぶ 3 泊 4 日で行われる合宿型ワークショップを実施。	8/18～21	奈良野外活動センター	3 人	17 人 (うちスタッフ 6 人)
メンバー活動サポート	メンバー登録をした子ども達へイベントや活動の情報を定期的に流したり、電話やメール、オフィスでの対応を通じて子どもメンバーが主体的に活動できるようサポートを実施。 活動ヒント講座を毎月 1 回開催。「ようこそ先輩」と題して元メンバーを講師として招き、学生時代の活動について話していただく場を設けた。	通年	主に事務所	2 人	全国のメンバー 1,500 人
	学校や地域のグループ活動のサポートの実施 また、各地の学校・グループの活動によって約 500 万円の寄附が集まった。	通年	主に事務所	2 人	全国のメンバー 1,500 人
	メンバーによって構成されている活動チームへのサポートの実施。活動チームに所属する子どもメンバーに、グループの運営の仕方、企画書の書き方や、電話のかけ方、プレスリリースやチラシの作成など広報について日々サポートを実施。 【活動チーム】チョコプロ、アンパサダーチーム、English チーム、募金チーム、フェアトレードチーム、mini WEDAY チームなど	通年	主に事務所	2 人	チームに所属するメンバー
東日本大震災子ども支援	東日本大震災の被災地の一つである、福島県立相馬高校に対して、出張講演、ワークショップを行った。	2015 年 9 月	福島県立相馬高等学校	2 人	2 年生 195 人

3) 外部ネットワーク

◆事業の目的と役割 ・ 活動内容

様々なセクター、組織とつながってネットワークを構築、協働し FTCJ のビジョン、ゴールを実現することを目指す。

<2015 度参加・構築したネットワーク>

- ・ JNNE（教育協力 NGO ネットワーク）：開発途上国の子どもへの教育支援を行っている NGO によるネットワーク。登録団体間での情報交換、勉強会を実施、外務省との意見交換や政策提言などを行います。ネットワークで行うキャンペーン「世界中の子どもに教育を」キャンペーン」にも 2015 年度も運営委員として参加しました。世界の全ての子どもへの良質な基礎教育提供を目指し世界の EFA(万人のための教育)運動とつながって国内でのアドボカシーや政策提言などのキャンペーン活動をしています。
- ・ 児童労働ネットワーク（CL ネット）：児童労働の廃絶に向け、勉強会、キャンペーンなどを行っています。児童労働問題に取り組む NGO、労働組合、その他非営利組織、個人で構成されており、FTCJ は運営委員団体として参加。
- ・ 日比 NGO ネットワーク（JPN）：フィリピンでの開発支援活動を行う日本の NGO とフィリピンの NGO によるネットワーク。イベントの開催や外務省との懇談会、団体間での情報交換を実施しています。
- ・ その他非営利組織への会員登録や他団体との協力
より良い事業運営のため JANIC（国際協力 NGO センター）、DEAR（開発教育協会）などのネットワークに参加しました。

ネットワーク名	内 容	実 施 日 時	実 施 場 所	従事者の人数	参加対象者の範囲・人数
JNNE／ 世界中の子どもに教育をキャンペーン	4 月 26 日～5 月 31 日にかけて途上国の教育の現状や教育援助の不足について学ぶ授業が実施され、47 都道府県の 780 校・グループ、72,463 人が参加した。	4 月～ 8 月	学校、 事務所	2 人	72,463 人
	5 月 13 日、衆議院第二議員会館で、6 年目となる「国会議員のための世界一大きな授業」を開催した。当団体のメンバーの高校生 8 名が「先生」、国会議員 19 名に対して、途上国の子どもの教育をテーマに授業を行った。JNNEからは NGO の提言などを伝えた。		国会議員、 外務大臣などへの 政策提言	2 人	19 人
	8 月 12 日水越 英明国際協力局地球規模課題担当参事官と面会し、日本で「世界一大きな授業」に参加した 7 万 2 千 463 人を代表して、全国から寄せられた 3,860 通の「首相・外務大臣への手紙」を手渡した。				
CL ネット	5 月 5 日～7 月 5 日にかけて「ストップ！児童労働キャンペーン 2015」を開催。情報発信は Facebook や Twitter 等の SNS を中心に行った。また、レッドカードを掲げて写真を撮影し応募するレッドカードアクションフォトコンテストを開催、120 作品が集まった。	5 月～7 月	全国	5 人	14 万人
	児童労働問題を伝えるため、上記のキャンペーン賛同イベントとして当団体主催で、6 月 7 日に「テイクアクションバレード 2015」、6 月 14 日に「児童労働を伝えよう、考えよう！学習会&御堂筋ウォーク 2015」を実施した。	6 月 7 日 6 月 15 日	東京 大阪	2 人	50 人
日比 NGO ネットワーク	フィリピンのより良い開発支援のための情報交換や、ネットワーク間での話し合い、及び外務省との連携。前年度に引き続きフィリピンの GGP（草の根・人間の安全保障無償資金協力。在外日本大使館が担当する途上国援助をするための ODA の一つのスキーム）の質的向上のため、外務省に対して提言及び意見交換会で発表を行った。また、超大型台風復興支援のための、支援事業をネットワークとして実施した。その他、日比の子どもやユースが交流しながらフィリピンの貧困問題や日本が抱える課題を共有し、解決に向け若者が主体的に活動する機縁とするイベントを 2016 年度に開催予定のため企画立案を行った。	通年	事務所、 東京、 大阪	1 人	フィリピン 社会全体、フィリピン をしえんする日比 NGO

4) アドボカシー事業

◆事業の目的と役割 ・ 活動内容

目的：国際問題や権利を奪われた子どもの現状を様々な方法で伝え、多くの人に知ってもらうことで問題解決につなげる。主に関東と関西で事業を展開しています。

内容：ニュースレター発行、ホームページ構築・更新、出版、資料開発、物販（フェアトレードチーム）、イベント実施、スピーカー派遣など

1) スピーカー派遣・事務所訪問対応・ワークショップ及びイベント実施活動

事業名	日時 回数	講演先 学校・団体・企業名	内 容	実 施 場 所	従事者 人数	受益対象者 の人数
イベント出展・ スピーカー派遣 (学校や地域へ の出張講演含)	4 月 19 日	佐野こども未来プロジェクト	世界と日本の違い、子どもたちが作るコミュニティ、実際に活動している子どもによるスピーチ、高校生対象のワークショップ、自分の特技を活かした活動	東京都	2 人	佐野市の高校生 30 名ほど
	5 月 9 日	平楽中学校	世界の現状、児童労働、活動紹介	神奈川県	2 人	中学校 1 年生 35 名程度
	5 月 11 日	栃木県立益子芳星高等学校	世界の現状、児童労働、活動紹介	栃木県	1 人	157 名
	5 月 15 日	上智大学 外国語学部全学科生	市民が関わる国際協力	東京都	1 人	146 人
	5 月 16 日	立命館守山高等学校	高校生にもできる国際協力について	滋賀県	1 人	高校 3 年生 288 名
	5 月 16 日	法政大学	FTCJ 活動紹介 ユースに何ができるか	東京都	3 人	40 名くらい
	5 月 20 日 22 日	立命館宇治高等学校	NGO とは、チームビルディング、社会問題(フィリピンフィールド)を知ろう。フィリピンで支援計画を作ってみる。	京都府	1 人	32 名
	5 月 21 日	神戸女学院大学文学部総合文化学科	FTC に関わる活動者たちの意識や価値観について	兵庫県	2 人	大学 2 年生 女子 70 名
	5 月 22 日	横浜雙葉高等学校	NGO 活動を通して感じること、考えること、見えてきたこと、など	神奈川県	1 人	高校 2 年生 1 クラス 45 名 ～47 名×2
	6 月 1 日	大阪府立能勢高等学校	国際 NGO の役割と仕事	大阪府	1 人	高校 1 年生 58 人
	6 月 5 日	兵庫県西宮市立中央公民館	児童労働、世界の子どもたち	兵庫県	1 人	西宮市幼稚園・小学校・中学校 PTA の保護者・一般の方 30 名～60 名
	6 月 8 日	大阪府立住吉高等学校	国際協力と私をつなぐもの、世界の問題	大阪府	2 人	国際文化科 高校 1 年生 40 人×4 クラス
	6 月 9 日	能勢町立東中学校	FTC、FTCJ の成り立ち、活動の様子	大阪府	1 人	中学校 1 年生 23 名
	6 月 10 日	港区立筈小学校	世界現状、児童労働	東京都	1 人	小学校 1 年生 ～6 年生 450 名
	6 月 12 日	白百合女子大学	児童労働について自分たちにできることなど	大阪府	1 人	仏文科キリスト教学 2 年生 70 名×2
	6 月 15 日	八戸聖ウルスラ学院高等学校	子どもの貧困問題のために私たちにできること	青森県	1 人	高校 2 年生英語科 30 名 中学 3 年生英語科 30 名
	6 月 16 日	青森県立青森南高等学校	社会問題を知る～私たち高校生にできること～	青森県	1 人	外国語科 1 年生～3 年生 119 名
	7 月 3 日	港区立筈小学校	積極的な平和教育	東京都	2 人	全校生徒+教職員
	7 月 4 日	町田市立真光寺中学校	「日本の文化・伝統を知り、世界とのつながりを考えよう」	東京都	4 人	中学 3 年生 1 分科会 30～40 名
	7 月 11 日	チャリティーイベント	団体紹介	東京都	1 人	子どもから大人 50～70 名

イベント出展・ スピーカー派遣 (学校や地域へ の出張講演含)		Vol.3@BA-TSU ARTGALLERY 原宿 主催: Leela				
	7月12日	FTSN 関東7月ミーティング	世界の現状、児童労働、団体説明	東京都	1人	関東圏でフェ アトレードの 推進活動をして いる学生 20名ほど
	7月23日	港区立筈小学校	私たちにできること、社会問題に対してアクシ ョンを起こす手法を学ぶ	東京都	1人	小学校4～6年 生 20～30名
	8月4日	JICA 大阪	世界の現状、児童労働、子どもの権利条約	大阪府	2人	教員、一般参加 者、高校生若干 名
	8月27日	相模女子大学高等部	児童労働の問題について、現状を認識し、その 解決のために自分たちに何ができるかを考える	神奈川 県	1人	高校1～3年生 社会科学・国際 系学部への進 学希望者 15名～20名
	8月29日	山梨英和中学校	世界の貧困問題 児童労働についての講演・ワークショップ	山梨県	2人	Special Saturday, 中学 1年生77人(3 クラス)
	9月4日	福島県立相馬高等学校	世界の現状、自分にできること	福島県	2人	高校2年生 総合学習内の 進路関係 195 名(5クラス)
	9月14日	昭和女子大学附属昭和高等学校	世界の子どもたちを取り巻く困難や問題、私た ちにできるアクション	東京都	1人	生徒35名
	9月16日	川崎市立大戸小学校	児童労働、子どもの権利	神奈川 県	1人	4クラス(児童 数145名)
	9月30日	世田谷区桜丘中学校	「児童労働」「子どもの権利条約」	東京都	1人	中学1年生 約 150人(4クラ ス)
	10月1日	パルシステム東京あおと委 員会	「Kids Can!」ゲームで学ぼう、働く子どもと 私たち	東京都	1人	大人、子ども 合計15名
	10月3日	グローバルフェスタ	FTCJ活動報告	東京都	2人	学生・一般 6名
	10月5日	大阪府立能勢高等学校	世界の貧困・児童労働など	大阪府	1人	高校1年生 全員 生徒59名 教員4名
	10月8日	白百合女子大学	自分を知る力・他者を大切にできる力・社会に貢 献する力	東京都	1人	英文科1年生 約110名
	10月16日	大阪府立西成高等学校	紛争、児童労働、難民問題を通して子どもの権 利条約	大阪府	2人	高校2年生12 人
	10月19日	栃木県立益子芳星高校	国際理解につながる講演・ワークショップ	栃木県	3人	1年生160名
	10月22日	大阪府立能勢高等学校	国際NGO活動から見える児童労働、NGOで働く ということ～	大阪府	1人	3年生56名
	11月5日	松原市立松原第三中学校	「社会の人権課題に目を向け、参画する」	大阪府	3人	中学2年生生 徒170人+教師 10人
	11月26日	川崎市立橘高等学校	団体紹介、世界の現状	神奈川 県	1人	国際科1～3 年 約120 名
	11月27日	名古屋市立工芸高等学校	人権について	愛知県	1人	全校生徒高校 840名+教職員
	12月8日	青森県立青森南高校	英語で学ぶ国際協力、チームビルディング	青森県	3人	外国語科1・2 年生77名+先 生4名
	12月17日、18日	横浜サイエンスフロンティア高校	世界の子どもたちの現状	神奈川 県	2人	高校1年生6 クラス×40人
事務所訪問対応	35回	FTCJ オフィス	月2回のボランティアデーや事務所訪問の対応	東京	2人	65人
FTCJ 説明会&活 動ヒント講座	10回	FTCJ オフィス	活動始めるきっかけを作る活動ヒント講座 を月1回開催。9月以降は2カ月に1度開催。	東京	2人	20人
ファシリテーター 養成講座	12回	FTCJ オフィス、会議室	ファシリテーター養成講座 アンバサダー養成や一般向けに講座を月1～2 回開催。	東京	2人	40人

【活動ご協力のご紹介】

◆助成協力：日本財団、日本労働組合連合会 愛のカンパ、世田谷区国際平和交流基金、年賀寄付金、モバイルコミュニケーション・ファンド

2) ニュースレター・メルマガ発行、団体ホームページ更新作成、資料教材開発・出版、物販活動

活動名	内 容	作業実施 日 時	実 施 場 所	従事者 人数	受益対象者 の範囲及び 人 数
ニュース レター・アニュアル レポート発行	2014 年度アニュアルレポート NL 36 号 特集： フィリピンスタディーツアー2015 春レポート NL 37 号 特集： ネパール緊急支援報告	7 月 7 月 11 月	東京 事務所	2 人	各号 600 部 印刷
メルマガ発行	4 月まで月に 1 回発行、5 月以降月に 2 回発行	通年	事務所	2 人	国内外の人々
ホー ム ペー ジ 更新・作成	web サイト随時更新：1 日平均 510 人程度アクセスあり。 ニュース・レポート：1 日平均 170 人程度アクセスあり	通年	事務所	2 人	国内外の人々
資料開発・ 出版	団体パンフレットの改訂、学校・教員向け冊子の発行、ワークショップ教材 の改訂。子どもや若者対象のスピーチに関する図書館向け書籍を 3 巻セッ トで大月書店より出版、副教材の開発。	通年	各イベント 等	3 人	子ども、学校、一般
物販	フェアトレード商品や出版物の紹介、それに関する資料作成と仕入れ、 販売など。	通年	事務所	2 人	子ども、一般

【活動ご協力のご紹介】

◆助成協力：日本財団（教員向け活動資料ガイドブック） 協働協力：大月書店（キッズスピーチ出版事業）

5) 海外自立支援事業 ・ 緊急支援事業

◆事業の目的と役割 ・ 活動内容

目的：貧困などが原因で権利を奪われ困っている開発途上国の子ども（支援地域のフィリピン、インド、モンゴルなど）の権利
が守られ教育を受けられ自立できるよう支援する。

内容：フィリピン、インド、モンゴル、ケニアなどの開発途上国の子どもが貧困から解放され自立できるよう包括的な支援事業
を実施する。

＜緊急支援事業＞ FTCJ では、ネパール大地震を受け、現地の NGO などを通じて緊急復興支援に取り組みました。

事業名	事業内容	実 施 日 時	受益対象者 の範囲及び 人 数
ネパール大地震 緊急復興支援	2015 年 4 月にネパールを直撃した大地震により甚大な被害を受けた首都カトマンズや、 周辺地域コミュニティ（シンドウパルチョーク、ゴルカ、ドラカ、ラスワ、ヌワコ ット、ダディン、チトワン、カトマンドウ、ラリトプル、バクタプル、カブレパラン チョーク、マクワンプールなど）において、現地 NGO「SEBS」を通じて緊急支援を実施し、 被災した人々、特に子どもを対象に、シェルターの設置、食糧物資やその他支援物資の 提供、メディカルチェック（医療支援）の提供、精神的外傷を負った子どもへの心のケ ア、子どもたちの遊びや学びの場の提供やワークショップの実施をした。また、シー ライツ（国際子ども権利センター）を通じてネパールの児童労働者やストリートチルド レンを支援する CWIN という現地 NGO の復興支援に寄付をした。	2015 年 4 月～ 12 月	ネパール大地震 で被災した左記 の地域に暮す 延べ 2 千人以上

＜モンゴル支援事業＞ 図書室設置事業：FTCJ では、バヤンズルフ地区の第 92 号学校の図書室運営サポート を行いました。

◆協力体制：モンゴルカルチャーパーク アルタン・ウルジー氏 / 学校との連携

事業名	事業内容	実 施 日 時	受益対象者 の範囲及び 人 数
図書館設置 事業	2008 年より 5 年間、モンゴルの伝統家屋のゲル図書館を運営し、たくさんの子ども たちが本を読んだり、友達と遊んだり、勉強をしたりして来てくれていましたが、完成よ り 5 年が経ち、ゲルの寿命が来たためこの図書館は 2012 年夏をもって閉鎖されまし たが、今後も子どもたちが本を読む機会を提供し続けるために、2014 年 3 月には開設 式を行い、2015 年度は運営マニュアルを作成し運営のサポートを行いました。	通年	支援地に住む 3,000 人の子 ども

<フィリピン支援事業> FTCJでは、下記5つの支援事業をフィリピンにて実施しました

事業名	事業内容	実施日 時	受益対象者の範囲及び人数
先住民の子どもの教育支援	手紙を通じて交流しながら子どもを支援する「文通プログラム」を通して集った資金とご寄付、助成金を使い、フィリピン・ミンダナオ島の台風被害にあった先住民コミュニティに暮らす中等教育を受ける年齢の子どもたちを対象にした通学の奨学金サポートや台風被害で心に傷をうけた子どもたちの心のケアや病氣予防、災害時の対処法などの知識を学ぶことができるワークショップの実施及び教育支援物資の支給を実施。	通年	ミンダナオ島 ディババウオン 族子ども 300 人
緊急復興支援	2013 年 11 月にフィリピンを直撃した台風 30 号「ハイラン（ヨランダ）」により、甚大な被害を受けた中部のパナイ島、レイテ島、セブ島、サマル島において、緊急復興支援を実施し、現地 NGO や自治体、公立学校などと連携し被災した子どもやその家族を対象に、子どもの心のケアのためのワークショップや、学校再建修繕事業、生計維持支援事業、子どもへの奨学金支援事業を実施。2015 年 10 月に事業完了した。	通年	被災者 5,449 人
性虐待や刑務所から救出された子ども教育支援	指定寄付やフェアトレード商品の収益によって、フィリピン・ルソン島ザンバレス州オロンガポに位置する現地パートナー団体ブレダ基金を通して、性的虐待・搾取を受けた少女や、路上や刑務所から救出された少年への教育、貧困地域への自立支援活動の実施。	通年	子ども約 200 人

【活動ご協力のご紹介】◆活動費助成協力：かけはし支援基金（先住民の子どもへの教育支援事業）

<インド支援事業> FTCJでは、下記2つの地域にて貧困地域の子どもの支援事業を行いました。

1. 西ベンガル州の貧困下におかれた子どもの救出・自立支援活動

◆事業目的：貧困が原因で権利を奪われ、児童労働などの過酷な環境に置かれているインド西ベンガルの子どものが、FTCJ の支援を通して貧困状態から助け出し、安心して健康的な子ども時代を送り、自立して生活できるための教育を受けられるよう支援します。

◆パートナー団体： Center for Communication and Development（以下 CCD）

<設立経緯・背景>

1978 年に起こった洪水がきっかけとなり被害を受けた人々を支援するため代表のスワン・マッカージ氏が中心となって設立された NGO。市街地から離れた所に医療診療所（Medical clinic）を作ることから着手し、学校のない村で学校建設や収入向上プロジェクト（Economic welfare activities）を開始。その後、危険な環境で働く子どもを救出し家族のもとへ返したり保護施設に預けたりする活動を始めた。現在は、CCD 自体が貧困のため家族と共に生活できない子どもや過酷な環境で働く子どもを救出し、子どもたちが安心して生活できるような環境を提供するため養護施設「マクタニール子どもの家」を運営している。そして、FTCJ は、この施設で暮らす少年たちの教育費や食費などをサポートしている。

事業名	事業内容	実施日 時	受益対象者の範囲及び人数
CCD マクタニール養護施設運営事業	手紙を通じて交流しながら子どもを支援する「文通プログラム」を通して集った資金やその他指定寄付を使って、施設で生活する子どもと CCD が支援する貧困家庭で暮らす子どもが学校に通え、栄養ある食事で健康に暮らせるよう支援を実施。具体的には学校に通うために必要な制服や文房具、ワークショップ教材費や、食費の提供、健康医療支援プログラムのために支援金を活用した。また、施設では美術や体育などの情操教育を通し、より豊かな心身の発達を育んでいる。	通年	マクタニール擁護施設で生活する 22 人の及び貧困家庭 30 人の子ども

2. ラジャスタン州の貧困農村地域の子どもの支援活動

◆事業目的：インドのラジャスタン州ウダイプル周辺ラジャスマンド地方貧困農村地域で生活する子どもたちが、子どもの権利が守られ安全で健康な子ども時代を送り、自立に向け教育を受けられるよう支援します。

◆事業実施体制：FTC ネットワークにより実施（FTC インドとの連携協力）

◆支援地域について

支援事業地：ラジャスタン州ウダイプル周辺ラジャスマンド地方バリンド村及びベルダラ村

支援地背景：支援地域の村では様々な少数民族がおり、人々は長い間社会から隔離され、取り残されてきた。村は深い森と高い丘に囲まれており、土地は平らではなく、電気やガス、水道などのライフラインは各家庭にひかれていない。半乾燥地帯のため土地を耕作する事が困難なため、村人の多くはやせた土地に住んで細々と農業を営んでいる。農業だけでは収入があまり得られないので出稼ぎ労働に従事している家族も多く見受けられる。

支援課題：統計によると、支援地域では栄養失調と不衛生な環境によって 2 割弱の幼児が 5 歳までに命を落としており、健康・保健面で問題があることが分かった。また、地域特有の問題として、土地の大部分を政府が所有しており、25%だけが人々が耕作する為に残された土地だが岩と石が多く半乾燥地帯のため農業には厳しい条件となっており、慢性的な水不足及び食糧不足により、住民は悩まされている。

事業名	事業内容	実施日 時	受益対象者の範囲及び人数
バリンド村自立支援ー保健衛生教育支援	2014 年度からの継続事業。子どもの保健衛生向上のために、学校施設敷地内に、トイレと手洗い場を建設設置し、また保健衛生の知識を高め、健康向上の活動を行った。具体的には学校敷地内に、スクールガーデンを設置し葉草や野菜類などの苗木を植え、学校に通う生徒とその家族がそれらの植物を育て健康のために使えるようなセミナーを行った。	通年	バリンド村の子ども 100 人
ベルダラ村自立支援ー教育支援（学校建設事業）	2014 年度からの継続事業。ベルダラ村に小学校の教室の建設事業を実施し、1 校舎の建設が完成し、小学校学齢期の子ども 120 人が学校に通えるようになった。	通年	ベルダラ村の子ども 120 人

【活動ご協力のご紹介】◆寄付協力：FTCJ インド学校建設事業チーム、チョコプロ 2014 年チーム、その他多数ご寄付（ベルダラ村教育支援事業）

6) その他

事業名	内 容	実 施 日 時	実 施 場 所	従事者 の人数
翻訳	事業の運営に関係する資料を日・英に翻訳。	通年	—	30 人
研修受講	円滑な組織・事務局運営のため下記の助成を受け研修を受講 ・データベース salesforce 研修受講 ・NPO 会計講座	8～3 月	東京	4 人
個人情報 管理	アクセスのデータを構築デザインし、メンバーや協力者などの個人情報 を整理し管理を行った。	通年	東京	4 人
問い合わせ 対応	メール、電話、FAX、郵送にて事務局に届く問合せや連絡に対応。対応 例：事務所訪問、出張講演調整、教材や物販の注文、団体など組織か らのアンケートへ返答、子ども、大学生、社会人からの質問返答、メ ンバー希望、団体への質問返答など（子どもメンバー183 人、ユースメ ンバー86 人、ボランティアメンバー登録 78 人）	通年	東京	3 人
会計	組織の透明な会計のための団体に関する資金の流れを管理し帳簿を付 けるなどの業務を実施。	通年	東京	2 人
理事会 運営・管理	事業を円滑に実施するための理事会の運営。	通年	東京	11 人
その他	事務所運営管理、什器管理など。	通年	東京	5 人

メディア掲載一覧

2015 年度（4 月～12 月）にメディアなどで配信・紹介された FTCJ の活動です。

時 期	メディア配信・媒体名	内 容
通年	『ビジュアル公民 2015』	児童労働をしている子どもたちの写真と文章を提供しました。
通年	JSBNPRESS	mini WEDAY の活動が取り上げられました。
4 月 7 日	WORK&LIFE 世界の労働	代表理事・中島早苗の論文が掲載されました。
5 月 20 日	朝日新聞	メンバーの活動が取り上げられました。
9 月 26 日	市民活動総合情報誌	活動内容が取り上げられました。
10 月 1 日	JICA フィリピン NGO ダイレクトリー	活動内容が掲載されました。

3. 事務局体制、役割報告

原 元 望：事務局長（4 月～7 月上旬まで。7 月上旬から産休中）

河本千夏：アドボカシー事業リーダー

天野フェイス冬樹：子ども活動応援事業・スピーカー派遣事業担当（4 月～12 月上旬）

工藤貴子：会計・総務（4 月～8 月）

倉下由香：会計・総務（4 月～10 月）

板倉香子：アドボカシー事業、会計総務

【理事兼任】

中島早苗：海外自立支援事業・組織運営全般

佐光紀子：テイク・アクション・キャンプ in カナダ、個人情報管理システム構築

出野恵子：事務局長代理（9 月～）

伴野保志：個人情報管理システム構築（11 月～）

【インターンご紹介】

2015 年度は下記のインターンのみなさんが活動を支援担当の事業を担いました。（敬称略・順不同）

中島将幹：アドボカシー事業（広報）、忽滑谷桃：子ども活動応援事業（テイクアクションキャンプ、ファシリテーター養成講座）、

Yvette Minko：アドボカシー事業、子ども活動応援事業（翻訳、活動ヒント講座）、

東 愛穂：アドボカシー事業（広報、物販）、子ども活動応援事業（チョコプロ）

園山明里：アドボカシー事業（広報、物販、イベント）資金調達